

2020年度 極上の会津ガイドブック アンケート中間分析（11月版）

1. アンケート実施概要

- (1) 実施期間（予定）：2020年6月～2021年2月28日
- (2) 実施方法：極上の会津ガイドブックに糊付けされたアンケートを郵送もしくはFAXで事務局へ送付。（郵便料金は回答者負担）
- (3) 集計枚数：641枚（2020年11月10日現在）
※2018年度：1,517枚、2017年度：1,588枚、2019年度：2,629枚

2. アンケート分析

(1) 回答者の居住地トップ10

順位	都道府県	回答者数
1	福島県	123
2	埼玉県	87
3	東京都	76
4	宮城県	72
5	千葉県	59
6	新潟県	58
7	栃木県	52
8	山形県	25
9	群馬県	23
10	茨城県	18

(2) 回答者の性別

No	項目	回答者数	割合
1	女性	281	44%
2	男性	360	56%
3	回答なし	0	0%
	合計	641	100%

回答における男女比は9月時点と変わらず。

※青字・・・2020年9月時点の割合

(2) 問1：ガイドブックの入手先

鉄道駅（JR及び東武鉄道）での入手が全体の50%（9月時点：52%）を占め、首都圏在住者に絞ると67%（72%）にのぼる。なお、鉄道駅での入手内訳はJR21%（18%）、東武鉄道29%（34%）と東武鉄道の割合が大きくなっているが、これは8月時点まで新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けたJRの判断により首都圏におけるガイドブック掲出を控え、JR仙台、JR新潟、JR水戸のみ掲出を実施したためと考えられる。また、2020年9月時点と比較すると11月現在の鉄道駅での入手率が2%のマイナスとなっているが、「イベント」「会津の施設」で入手したと回答した方がそれぞれ1%ずつ増加しており、会津地方への来訪者数が戻りつつあることを伺わせる。

一方で、道の駅での入手が21%（昨年度：15%）、SA/PAでの入手が10%（9月時点：11% 昨年度：7%）と道路沿いの施設での入手率が高くなっており、乗用車で移動する旅行者が増加したと推測できる。

(3) 問2：ガイドブックを手にした理由

「会津に興味がある」「会津へ旅行に行く」と回答した方が72%（9月時点：73%）を占める。「会津に興味がある」と回答した方は去年より5%マイナスの47%（46%）となったが、「内容」は14%（昨年度：9%）、「デザイン」8%（昨年度：5%）であった。なんとなく手に取ったが、内容が充実しており会津に興味をわいた、あるいは会津に興味は無かったが表紙のデザインに目を引かれて

入手したというコメントも複数寄せられており、今年度版のガイドブックはより訴求力の高い観光情報誌となっていると言えよう。

(4) 問3：おもしろかった記事

全体では、「絶景」が22%（昨年度：26%）と最も多く「温泉」、「歴史（日本遺産）」が16%、「カフェ」が15%と続く。「食」は昨年度の16%から大幅にポイント数を下げ、6%に留まったが、これは今年度より追加された「カフェ」15%「土産」6%に票が分散したものと思われる。女性の嗜好を意識し作成した「カフェ」項目では、半数以上が男性の回答であったことから、性別に関わりなく好まれるコンテンツであることがうかがえる。なお、「絶景」は昨年度比で4ポイントのマイナスとなったが、「カフェ」「土産」「食」がその受け皿になっていると考えられる。

また、女性の回答が多かったのが「食」「体験」。体験については、親子連れで楽しめる体験型アクティビティを紹介してほしいというコメントが複数寄せられた。2021年度のガイドブックの「体験」項目には親子連れに訴求力の高いアクティビティをぜひ取り入れたい。

(5) 問4：会津への旅行回数

3回以上来訪経験のある方が全体の71%（9月時点：69%）を占め、2回来訪された方は14%（15%）、1回のみの方は4%（8%）、来訪経験が無いもののアンケートに回答して下さった方は全体の4%（3%）。会津への旅行回数が0回の方の回答数は昨年度より4ポイント減少し4%となった一方で、6回以上会津へ旅行した方は昨年度より10ポイント増加し44%となり、近隣都市や隣県からのリピーター層が旅行先として会津を選ぶ傾向が強くなっていると推測される。

(6) 問5：「会津の三十三観音めぐり」が日本遺産に登録された事を知っているか。

73%（昨年度：79%）と7割近くの方が知らないと回答しており、首都圏在住者に絞ると85%（9月時点：82%）が知らないと回答している。昨年比では、知っている方は全体で4%、首都圏在住者では1%の減となった。

(8) 問7：今後知りたい情報

全体では、「温泉」が15%（9月時点：14%）と最も高く、次いで「食」が13%（14%）、「観光情報」が12%、「自然」が11%、「イベント」・「歴史」が10%（9月時点：「イベント」11%）、「寺社仏閣」が9%と続く。女性に絞ると「温泉」が15%（14%）、「食」「観光情報」が13%、「自然」「イベント」が10%、「歴史」が9%となる。

「歴史（日本遺産）」や「神社仏閣」など日本遺産「会津の三十三観音めぐり」に関する項目は女性よりも男性の回答率が高い。

(9) 問6：直近で会津を訪れた方へ

①目的

「温泉」35%（9月時点：34% 昨年度：27%）が最も高く、「自然」23%、「食」22%（昨年度：13%）、「歴史」14%と続く。「歴史」は昨年度より6%のマイナスとなり、会津には温泉や食といった「癒し」を求める旅行者が増えたと考えられる。

②宿泊期間

昨年度同様、全体・首都圏在住者ともに「1泊」での来訪が中心（全体55%（9月時点：52%）、首都圏60%（58%））であるが、次いで全体では「日帰り」29%（31%）、首都圏では「2泊」20%（19%）となる。昨年度は首都圏在住者で「2泊」と回答した方は26%だったが、今般の新型コロナウイルス感染症の影響により、中長期の宿泊を控える首都圏在住の旅行者が増加したためと推測される。

③同伴者

「夫婦」49%（9月時点：50% 昨年度36%）、「1人」15%、「友人」17%（19%）、「家族」16%（9月時点：14% 昨年度25%）の順が多い。「夫婦」単位で旅行する方が大幅に増加し、「家族」旅行は11%のマイナスとなった。②と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、家族単位（集団）での旅行を自粛し、1人ないしは少人数の旅が好まれる傾向がうかがえる。しかしながら、9月時点から「家族」で会津を来訪した方が2%の増となっており、家族単位で旅行することに抵抗感を感じる旅行者が減りつつあるようだ。

④会津への交通手段

「自家用車」が65%（昨年度：51%）と最も高く、次いで「JR」13%（昨年度：23%）、「東武・会津鉄道」が12%、「バス」が7%（昨年度：10%）と続く。公共交通機関の利用を避け、自家用車で移動する方が増加した。

⑤会津内での交通手段

「自家用車」が64%（9月時点：61% 昨年度：49%）と最も高く、次いで「バス」12%（9月時点：11% 昨年度：18%）、「JR」10%と続き、公共交通機関の利用を避ける旅行者が大幅に増えた。チャリカフェ事業で活用した「レンタカー」は4%に留まり、昨年度から2%の減少となっている。

⑥困ったこと

「案内板・地図」「トイレの利用・整備」が10%と最も高く、次いで「公共交通機関の利用」が8%、「道路」7%と続く。「道路」と回答した方については、昨年度は5%であったが、乗用車で移動する方が増加したために道路標識や一方通行など、道路事情で不便さを感じる旅行者が増えたと考えられる。

（10）問8：ガイドブックの感想

2020年11月10日現在、150件以上のコメントが寄せられている。主要なコメントは以下のとおり。

- ・写真が美しく、目を引かれる。（特に絶景のページ）
- ・ページ数の割には内容が充実しており読みごたえがある。
- ・実際に旅行の参考にするつもりである（あるいは、目的地を決める際に参考になった）
- ・保存版にしている。
- ・新型コロナウイルス感染症が終息したら来訪したい。

<要望>

- ・高齢者には文字が小さく感じる。
- ・広域版だけでなく、より詳細な地図を載せてほしい。
- ・店舗の営業情報や商品の価格を併記してほしい。
- ・絶景や表紙の写真には撮影時期を載せてほしい。